

# 乳児院



### 子どもを守る砦

後援会長 森下眞治

「ゆるしてください」の文を残して亡くなった五歳の子どもの報道に「怒り心頭」になった多数の国民。私もその一人でした。このような事情の子どもたちが里山学院のような砦にたどりつくまでに多数の機関、人々の努力があることは知っていますが、その根本的原因を考えないわけにはいきません。里山学院、つまりは「子どもを守る砦」をサポートしていくのが後援会の役目だと思います。後援会としては、日々活動されている先生方からの要望を受け止めて砦を守るツールにしてもらいたいと考えています。多くの賛同者が集い、後援会員の拡大で応援できたらと思っています。

### 乳児院の今後

乳児院院長 鍵山雅夫

当乳児院は5年目を迎える新米施設ですが、国の方針で乳児院は里親中心で、乳児院としてのあり方は変革を求められています。施設が要らない社会は理想ですが、虐待死亡が未だ発生をする中で、この急激な変革には疑問と不安を感じます。我々は支援が必要である所を支援し、支援漏れが起こらないような情報網を作り、対応する一つの機関となり、求められる取組ができる施設を目指そうと考えています。



### 里山祭にて



### 新年の挨拶にて



### プールにて



### 里山学院の展望

後援会幹事 村主亮春

後援会が発足して10年が過ぎようとしています。この間の里山学院子ども達をとりまく社会状況の変化の中、確実に里山学院を必要とする社会の中で拡充してきましたが、まだ多くの人たちの中では、児童養護施設の里山学院の存在が充分理解されていないのが現状でしょう。そのような中、私たち後援会委員も拡充が必要でしょう。地域の子育て支援の一端を里山学院が担えるように、私たち後援会員も自分の出来る範囲で行動を起こしていきましょう。例えば会員の皆様が経験したり聞いたりした情報を里山学院に、連絡していただくことも素敵な後援会の活動でしょう。逆にお手元のこの会報をぜひお近くの方に配布し、里山学院の活動を紹介して下さい。

### ～後援会より～

学院の運営財源は、国や県からの措置費、皆様からの寄付金などで賄っていますが、子どもたちの教育活動や建物・設備品の維持管理などの財源確保に毎年苦慮しているのが現状です。学院近隣の方々やボランティアの方々の有志により「里山学院後援会」が平成21年3月に発足いたしました。子どもたちに対する物心両面からの支援と学院のさらなる向上に期待し、努力していただいております。社会福祉法人 里山学院では、子どもたちに物心両面での援助をしてくださる方を募集しております。ボランティア・施設見学は右記まで。

【里山学院後援会ご加入方法】  
会費は、年額 1口 個人2,000円 企業・団体5,000円  
郵便振替口座にお振込みいただきますようお願い致します。  
【口座番号 00890-1-206505 口座名義 里山学院後援会】

【寄付金振込先】郵便振替口座  
【口座番号 00810-4-174289 口座名義 社会福祉法人 里山学院】

### 里山学院

〒510-0307  
三重県津市河芸町影重1162  
TEL (059) 245-0116  
FAX (059) 245-6020  
E-mail: kawageyougo@satoyamagakuinn.or.jp

### 鈴鹿里山学院

〒513-0056  
三重県鈴鹿市上箕田1丁目6-2  
TEL (059) 381-6021  
FAX (059) 381-6020  
E-mail: suzukayougo@satoyamagakuinn.or.jp

### 乳児院

〒510-0307  
三重県津市河芸町影重1162  
TEL (059) 253-3780  
E-mail: nadeshikobaby@etude.ocn.ne.jp



# 里山学院

## 今後の展望

里山学院院長 奥 昭徳

新しい社会的養育ビジョンが出され、推進計画の見直し等々現場では大変な葛藤が起こっています。子ども達と安心・安全な生活を送るため日々の努力が一層必要となっています。人材確保も大切な一面となっています。しかし、施策の変化があっても、傷ついた子ども達がいることには何も変わりはありません。今後も児童養護施設の使命を貫くためにも、職員一人ひとりの気持の寛大さが必要だと思います。



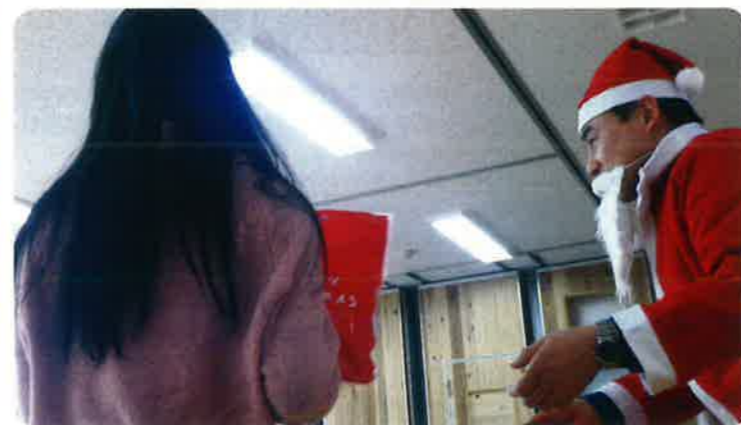
海にて



招待行事にて



夏休み科学体験にて



クリスマス会にて

# 鈴鹿里山学院

## 里山学院の展望

鈴鹿里山学院院長 工藤 雅弘

社会的養護の基礎は日々の生活の営みであり、安全で安心した環境の中で愛着形成を行い、心身及び社会性の適切な発達を促す養育の場となる必要があります。私たち鈴鹿里山学院は単なる養育者としてではなく、子どもの心身の成長や治癒に関する様々な理論や技法を統合的に適用できる職員を目指しています。そして子どもや家庭に関する地域の皆様のニーズに応えられるキーステーションになりたいと考えています。

外食にて



運動会にて



ハロウィンにて



クリスマス会にて



## 今後の社会的養護としての里山学院

後援会の皆様には、数々のご支援ご協力を賜り、感謝申し上げます。

先日の後援会役員会において、後援会の支援をお願いするにあたり、里山学院の今後の展望を後援会員の方々に明確に示す必要があるとのご意見をいただきました。確かに前回の後援会報では、「鈴鹿に施設を開所するために、建設費の資金援助・施設理解を広める等の理由で、後援会を立ち上げた。」で、終わっていました。そこで、皆さんに法人としての今後のあり方をご説明させていただきます。

里山学院は元々地域の季節保育園から里親、里親から施設になっており、目の前の支援を必要とする方々を見て、すべきことをしてきました。その方針を継承して、鈴鹿市に施設が無い、河芸の施設の子どもの生活スペースを増やしたい思いから鈴鹿に施設を立ち上げ、河芸本体の定員を1/3に下げて生活スペースを広げました。そして、三重県の乳児の施設が不足をしているので、三重県の乳児を県外の乳児院に預けている実態を聞き、乳児院を立ち上げました。更に鈴鹿では子どもの相談件数増加、一旦親子分離をする一時保護対応に苦慮する等隣接の亀山市と共に問題を抱えていることを聞いたので、その対応に、鈴鹿市に「児童家庭支援センター」・「一時保護施設」の創設の協議を重ねてきました。亀山市からは、他に色々なご意見をうかがい調整をしているところです。

津市河芸町の地元とは長年のお付き合いなので施設の存在も理解していただき、子どもの声が常に聞こえ、活気があると周囲から声をいただき、その関係を活かして多くの社会的養護の子ども達を地域と共に育て、殆どは家庭へ、そして社会へと送り出すことができました。鈴鹿市・亀山市とも今後新たな関係を築き、河芸同様鈴鹿・亀山の子を受け、多くの子どもを共に育て、家庭へ帰し、元の地で生活できるようにと考えています。

今、社会的養護施設のあり方を大改革するものが国から提示され、周囲からは「これから施設も大変ですね」という声も聞かれます。逆にそのような時だからこそ原点に立ち返り、里山学院の創始者である角谷盛善上人夫妻がされてきたように、その時は運営も厳しく、社会からも認められにくくても、支援を必要とする子どもが河芸町に集まり、滋賀県の総本山西教寺では支援を必要とするお年寄りを集まる、真のニーズに応える姿勢を貫くべきと思っています。

当時は後援会の代わりに、多くの支援者が物資の支援や活動の後押しがあったとも聞いております。今は後援会員の方々に、その支援者になっていただけるような、活動・発信を心掛けていきます。一人でも多くの方々に里山学院を知っていただき、活動を見守り、ご支援ご助言をいただければ幸いです。

## 第10期 里山学院後援会会計収支予算書

自 平成29年 9月 1日  
至 平成30年 3月 31日

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	予算額	決算額	摘 要	科 目	予算額	決算額	摘 要
会費収入	250,000		個人 名 口 円 企業・団体 企業・団体 口 円	会議費	10,000		役員会茶菓子他 0円
雑収入	40,000		募金箱 19,752円	事業運営費	20,000	0	里山祭くじ引き代 0円
繰越金収入	879,382	879,382		事務雑費	20,000	0	残高証明発行料金 円
				通信費	25,000		会報郵送料(82円×50枚) 円
				印刷製本費	60,000		会報印刷代(200部) 円
				備品購入費	100,000		円
				予備費	934,382	0	
合 計	1,169,382	879,382			1,169,382	0	

## 第10期 里山学院後援会会計収支決算書

自 平成29年 9月 1日  
至 平成30年 3月 31日

収 入 の 部				支 出 の 部			
科 目	予算額	決算額	摘 要	科 目	予算額	決算額	摘 要
会費収入	250,000	114,000	個人 22名 52口 104,000円 企業・団体 1団体 2口 10,000円	会議費支出	10,000	3,450	役員会茶菓子他 3,450円
雑収入	40,000		募金箱 0円	事業運営費支出	20,000	18,592	里山祭くじ引き代 18,592円
繰越金収入	879,382	879,382		消耗品費支出	20,000	6,671	用紙、インク代 6,671円
				手数料支出		102	残高証明発行料金 102円
				通信運搬費支出	25,000	15,732	会報郵送料(92円×171枚) 15,732円
				印刷製本費支出	60,000	49,680	会報印刷代(500部) 49,680円
				備品購入費支出	100,000	0	0円
				予備費支出	934,382	0	
合 計	1,169,382	993,382			1,169,382	94,227	

収入金額 993,382 円 - 支出金額 94,227 円 = 差引額 899,155 円 (次年度へ繰越)